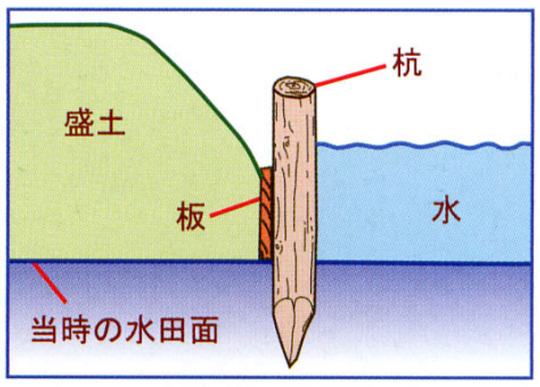
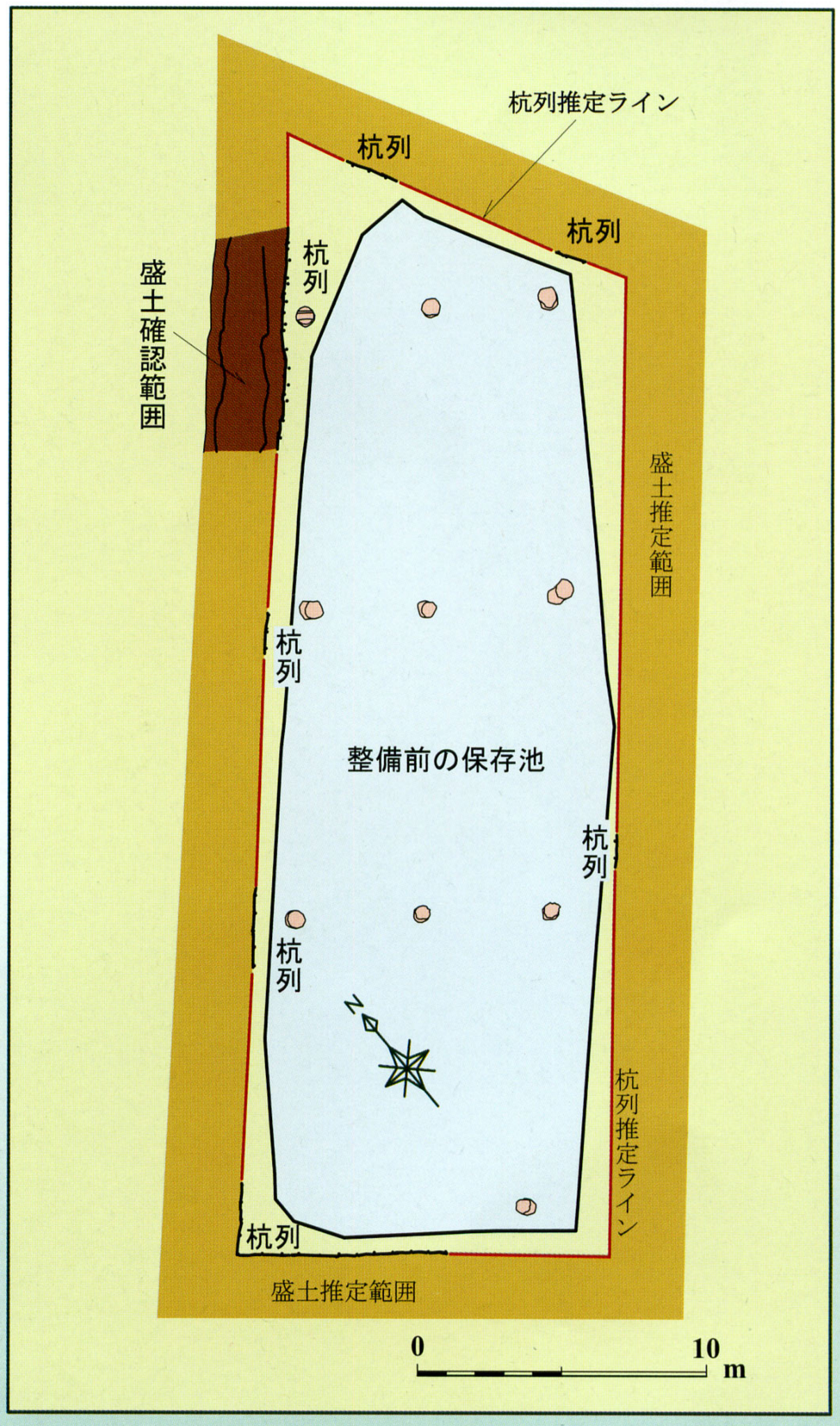
地域に守られてきた史跡

表紙の写真からは大変な作業であったことがうかがい知れます。保存池で保存されるようになったあとも、下町屋の青年団を中心に防腐剤を塗るなど、橋脚保護のための作業が続けられたことが伝えられています。

さらに、昭和40(1965)年には隣接地を所有していた武藤工業が中心となって保存池の改修を行うなど、本史跡は地域の人々に守られながら今日まで保存されてきました。

確認された盛土範囲　保存池北部





大正期の護岸遺構

調査では、大正期保存池の護岸遺構が確認され、その構造が明らかとなりました。

木杭と横板で組まれた土留めの外側に幅約1m90cm、高さ50cmの土盛りがされていました。東・南側の調査区でも同様に確認され、周堤帯を持つていねいな作りの保存池だったことがわかりました。

完成直後の保存池（まだ、電柱が立ったままです）

平成元年　茅ヶ崎市農業協同組合発行

『写真集緑萌える日々ー合併二十周年記念』から転載